

Privia

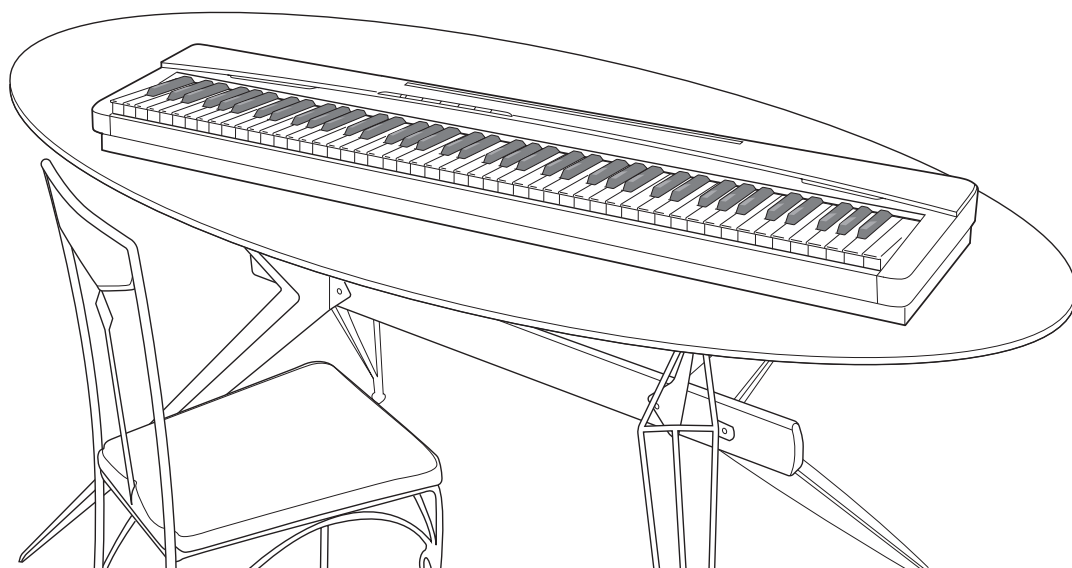
PX-160

取扱説明書（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、保証書とともに、大切に保管してください。

「安全上のご注意」

ご使用前に、添付別紙「安全上のご注意」をお読みの上、正しくお使いください。



■ JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。



このマークはEU諸国における
リサイクル規制のマークです。

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。



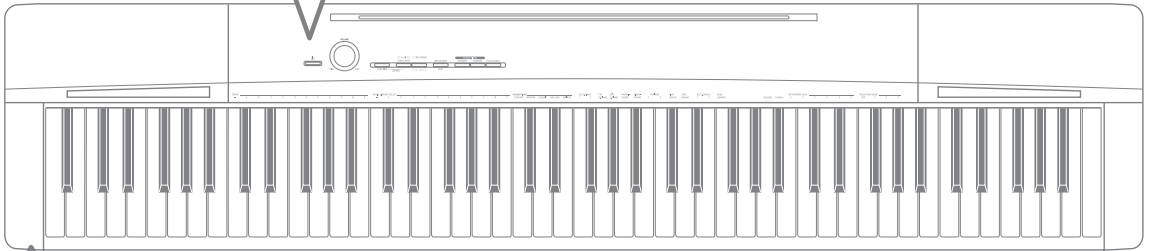
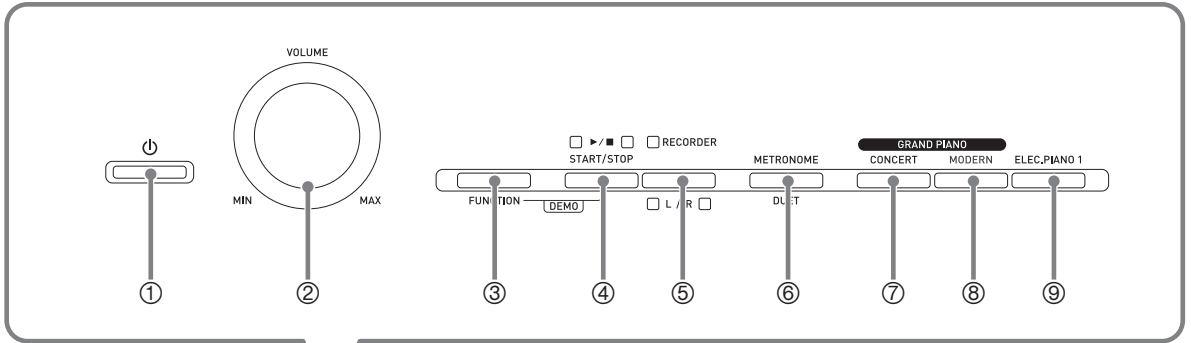
Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the European Union:
CASIO EUROPE GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

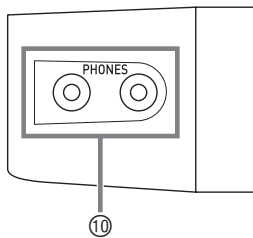
目次

各部の名称	2	その他の設定	17
譜面立ての立て方.....	2	設定するには.....	17
FUNCTION ボタンについて.....	3	設定に使用する鍵盤一覧.....	18
設定の保存と、操作のロックについて.....	3	設定項目一覧表.....	19
電源について	4	音色選択.....	19
ACアダプターの使い方.....	4	リバーブ.....	19
電源の入れ方、切り方.....	5	コーラス.....	19
接続について	6	プリリアンス.....	19
ヘッドホンを接続するには.....	6	レイヤーのバランス.....	19
オーディオやアンプと接続するには.....	6	ダンパーノイズ.....	19
ペダルを接続するには.....	7	デュエットのパン.....	19
付属品・別売品について.....	7	テンポ (TEMPO).....	19
いろいろな音色を聴いてみましょう	8	曲選択 (MUSIC LIBRARY SELECT).....	19
音色を選んで弾いてみる.....	8	曲の音量.....	19
2つの音色を重ねてみる (レイヤー).....	9	メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT).....	19
音色に効果をかけてみる (エフェクト).....	10	メトロノームの音量.....	19
メトロノームを鳴らしてみる.....	10	鍵盤の調 (トランスポーズ).....	20
鍵盤を左右に分けて2人で弾く (デュエット).....	11	音の高さの微調整 (チューニング).....	20
内蔵曲 (ミュージックライブラリー) を デモ演奏で聴く	12	オクターブシフト.....	20
デモ演奏を聴いてみる.....	12	音律.....	20
ミュージックライブラリーの曲を 1曲ずつ聴いてみる.....	12	音律選択.....	20
ミュージックライブラリーの曲を 練習してみる.....	13	音律の基音 (ベースノート).....	20
演奏を録音/再生してみる (録音機能)	14	鍵盤のタッチ (TOUCH RESPONSE).....	20
トラックについて.....	14	USB デバイスモードの設定.....	21
演奏を録音してみる.....	15	送信チャンネル.....	21
録音した演奏を再生してみる.....	16	ローカルコントロール.....	21
録音した内容を消去するには.....	16	操作音.....	21
		設定の保存.....	21
		操作のロック.....	21
		パソコンとの接続について	22
		パソコンと接続する.....	22
		MIDI 機能を使ってみる.....	22
		録音した曲をパソコンに保存する/ パソコンの曲データを本機に読み込む.....	23
		資料	25
		困ったときは.....	25
		製品仕様.....	26
		音色リスト.....	28
		ソングリスト.....	28
		ご使用上の注意.....	29
		保証・アフターサービスについて.....	29
		MIDI インプリメンテーション・チャート	

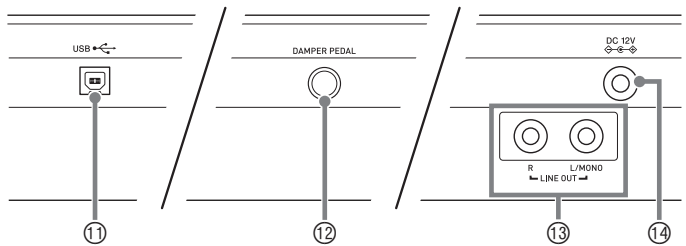
各部の名称



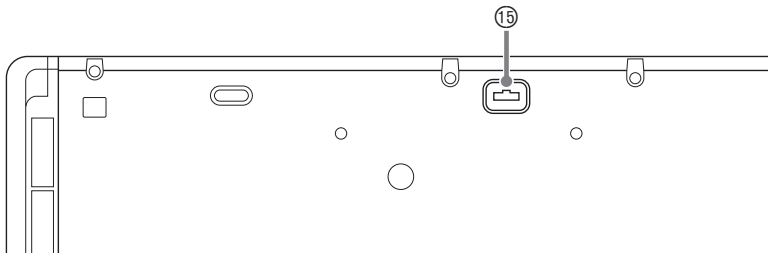
【前面部】



【背面部】

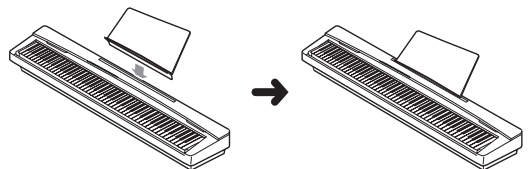


【底面部】



譜面立ての立て方

譜面立ては、本体の上部にあるみぞにその脚を差し込んでお使いください。



メモ

- マーク右の数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

- ① (電源)ボタン 5
- ② ^{ボリューム}**VOLUME**つまみ 6, 8
- ③ ^{ファンクション}**FUNCTION**ボタン
3, 8, 9, 11, 12, 13, 15, 16, 17, 23, 24
- ④ ^{スタート/ストップ}**START/STOP** ▶/■, ^{デモ}**DEMO**ボタン
3, 10, 12, 13, 15, 16, 24
- ⑤ ^{レコーダー}**RECORDER (L/R)**ボタン 3, 13, 14, 15, 16
- ⑥ ^{メトロノーム}**METRONOME**, ^{デュエット}**DUET**ボタン 3, 10, 15
- ⑦ ^{グランドピアノ}**GRAND PIANO (CONCERT)**ボタン
8, 9, 23, 24
- ⑧ ^{グランドピアノ}**GRAND PIANO (MODERN)**ボタン
8, 9, 23, 24
- ⑨ ^{エレКТリックピアノ 1}**ELEC.PIANO 1**ボタン 8, 23, 24
- ⑩ ^{ホンズ}**PHONES**端子 6
- ⑪ ^{ユーエスビー}**USB** 端子 22
- ⑫ ^{ダンパーペダル}**DAMPER PEDAL**端子 7, 11
- ⑬ ^{ラインアウト}**LINE OUT R, L/MONO**端子 6
- ⑭ 電源端子 (DC 12V) 4
- ⑮ ペダルコネクター 7

FUNCTIONボタンについて

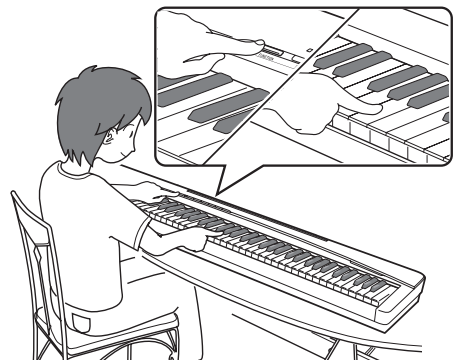
本機では、**FUNCTION**ボタンを使って様々な設定を行います。操作の流れとポイントを、ここでつかんでおきましょう。

- **FUNCTION**ボタンは、これを押しながら、設定項目が割り当てられている鍵盤を押す、という使い方をします。鍵盤を押して設定を行うと、お知らせのための操作音が鳴ります。

例：8ページの「演奏を始めるには」

メモ

- 詳しい操作方法や設定できる内容については、17ページ「その他の設定」を参照してください。



- **FUNCTION**ボタンを押している間、本体パネル上にあるボタンは以下の機能に割り当てられます。
 - **START/STOP** ▶/■ボタン：デモ演奏の開始/停止
 - **RECORDER**ボタン：Lパート/Rパート選択
 - **METRONOME**ボタン：デュエット

設定の保存と、操作のロックについて

本機では、各種設定の内容を電源を切った後も保存したり、ボタンをロックして誤操作を防ぐこともできます。詳しくは19～21ページの「設定項目一覧表」を参照してください。

電源について

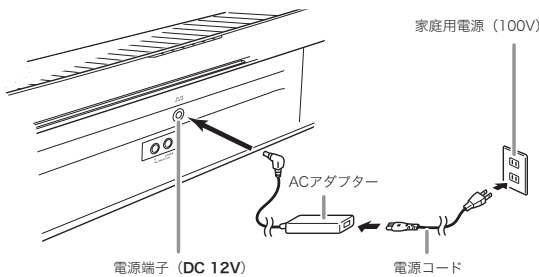
本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

ACアダプターの使い方

本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。付属以外のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

本機指定ACアダプターの型式：AD-A12150LW

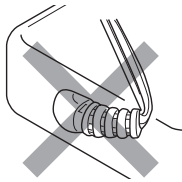
- ACアダプターの接続には、下図のように付属の電源コードをご使用ください。



コード部の断線防止のため、次の点にご注意ください。

<使用時>

- コードを強く引っ張らない
- コードを繰り返し引っ張らない
- コードの根元部分を折り曲げない

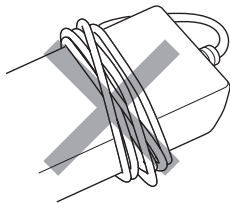


<移動時>

- 本体を移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから外す

<保管時>

- コードは図のようにACアダプター本体に巻き付けず、束ねてまとめる





重要!

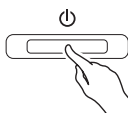
- 本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 付属の電源コードは、本製品以外の電気機器には使用しないでください。


■ 付属のACアダプターについて


- 本ACアダプターは、使用する機器の近くにあるコンセントに差込んで使用してください。不具合が生じた時には、コンセントから直に取り外せるようにしてください。
- 本ACアダプターは、屋内専用です。水滴のかかる場所には置かないでください。また、水の入った花瓶などを本ACアダプターの上にのせないでください。
- 本ACアダプターは、湿気のないところで保管してください。
- 本ACアダプターは、広々とした換気の良いところでお使いください。
- 本ACアダプターを、新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで覆わないようにしてください。
- 使用する機器を長い間使用しない時には、本ACアダプターをコンセントから外してください。
- 本ACアダプターは、修理することができません。
- 本ACアダプターの使用環境：温度0～40℃
湿度10%～90%RH
- 出力形式：◇—G—◇

電源の入れ方、切り方


1. 付属のACコードで、ご家庭の100V電源とACアダプター本体を接続します。
2.  ボタン（本機の電源をコントロールするボタン、以降「（電源）ボタン」）を押して、本機の電源を入れます。



- （電源）ボタンが点灯します。
- GRAND PIANO (CONCERT、MODERN)、ELEC.PIANO 1 ボタンのランプが交互に点灯し、約5秒後に使用可能となります。

3. 本機の電源を切るには、（電源）ボタンを消灯するまで押し続けます。

メモ



- （電源）ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間放置すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間です。

- 下記の操作で一時的にオートパワーオフ機能をキャンセルすることができます。


■ オートパワーオフ機能をキャンセルするには

1. 本機の電源が入っている場合は、（電源）ボタンを押して、いったん電源を切ります。
2. FUNCTIONボタンを押しながら、（電源）ボタンを押します。



- オートパワーオフ機能がキャンセルされた状態で、電源が入ります。

メモ

- 上記の操作の後で電源を切り、（電源）ボタンだけを押して電源を入れ直すと、オートパワーオフ機能は再び有効になります。

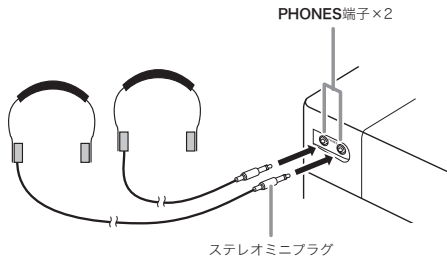
接続について

重要!

- 接続の際は、本機のVOLUMEつまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。

ヘッドホンを接続するには

【前面部】



別売（CP-16）あるいは市販のヘッドホンをつまみに接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

メモ

- ヘッドホンのプラグはPHONES端子に根元までしっかり差し込んでください。プラグが根元まで挿入されていないと、ヘッドホンの片側からしか音が出ない場合があります。
- ヘッドホンのプラグの形状が端子にあわない場合は、市販の変換プラグをご使用ください。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。

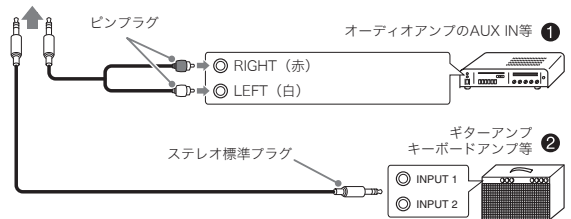
オーディオやアンプと接続するには

オーディオや楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。

重要!

- 本機では、ヘッドホンを使用しているときはヘッドホンで聴くのに適した音質に、内蔵スピーカーを使用しているときは内蔵スピーカーで聴くのに適した音質に自動的に切り替わります。これに従って本機のLINE OUT R, L/MONO端子から出力される音質も自動的に変わります。
- 接続の際は、本機のVOLUMEつまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。
- 接続に際しては、接続機器の取扱説明書も併せてお読みください。

本機のLINE OUT端子へ



オーディオと接続するには (図①)

LINE OUT R (Right) が右チャンネル、LINE OUT L/MONO (Left) が左チャンネルの音です。市販の接続コードで図①のように、両方とも接続してください。通常はオーディオのインプットセレクターを、接続した端子 (AUX IN等) に切り替えます。音量は本機のVOLUMEつまみでも調節できます。

楽器用アンプと接続するには (図②)

LINE OUT R (Right) が右チャンネル、LINE OUT L/MONO (Left) が左チャンネルの音です。LINE OUT L/MONOだけに接続すれば、両方のチャンネルの混ざった音になります。市販の接続コードで図②のように接続してください。

音量は本機のVOLUMEつまみでも調節できます。

重要!

LINE OUT端子を使うとき

- LINE OUT端子を使う場合は、PHONES端子にヘッドホンをつまみに接続してください。ラインアウトに適した音質に切り替わります。

ペダルを接続するには

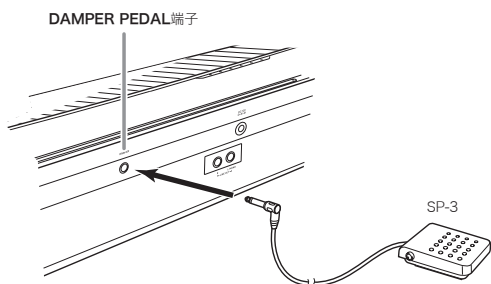
DAMPER PEDAL端子とダンパーペダル機能について

付属のペダル（SP-3）を、DAMPER PEDAL端子に接続して、ダンパーペダルとして使用できます。

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の余韻が長くなります。

- GRAND PIANO音色（CONCERT/MODERN/CLASSIC/MELLOW/BRIGHT）を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使用している時のような共鳴効果も生み出せます。

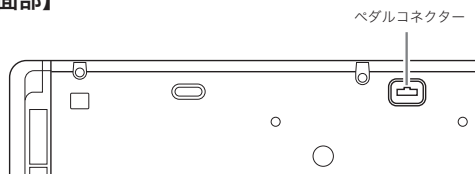
【背面部】



ペダルコネクターについて

ペダルコネクターには、別売のペダルユニット（SP-33）をご利用ください。よりグランドピアノに近い、表現力豊かなペダル演奏が楽しめます。

【底面部】



【SP-33のペダル機能】

● ダンパーペダル

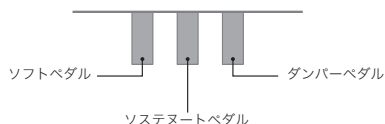
左記のダンパーペダル機能に加えて、ペダルを途中で踏んで浅く効果をかける「ハーフペダル」にも対応します。

● ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聞こえる効果が得られます。

● ソステヌートペダル

このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、ペダルを離すまで余韻が長くなる効果が得られます。



メモ

- SP-33を使用するには、別売品の専用スタンドCS-67Pが必要です。

ダンパーノイズを鳴らさないようにするには

ダンパーノイズとは、アコースティックピアノでダンパーペダルを踏むと、ダンパーがピアノ線から離れる際に発する小さな「シャーン」という音のことです。

本機のダンパーレゾナンスには、このダンパーノイズが含まれています。

下記の操作で、ダンパーノイズを鳴らすか鳴らさないかを選択できます。

1. FUNCTIONボタンを押したまま、ダンパーノイズ鍵盤（18ページ）を押します。

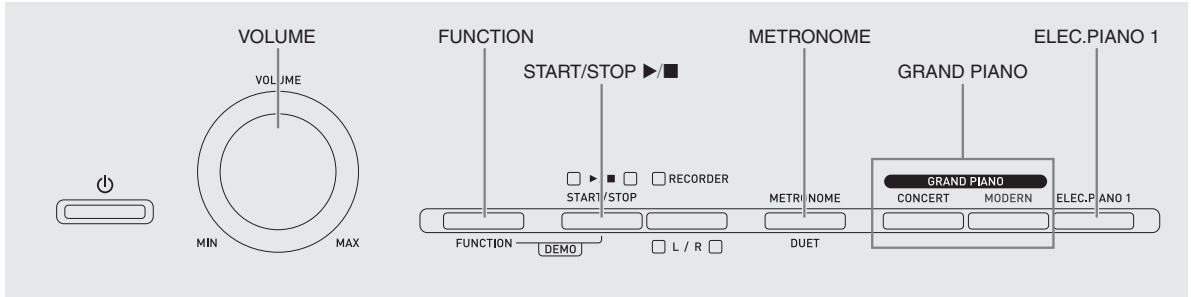
- 押すことに音が鳴り、設定が切り替わります。
 - ピーという音：ダンパーノイズを鳴らさない
 - ピットという短い音：ダンパーノイズを鳴らす
- 詳しくは、19～21ページの「設定項目一覧表」の中の「ダンパーノイズ」（19ページ）を参照してください。

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

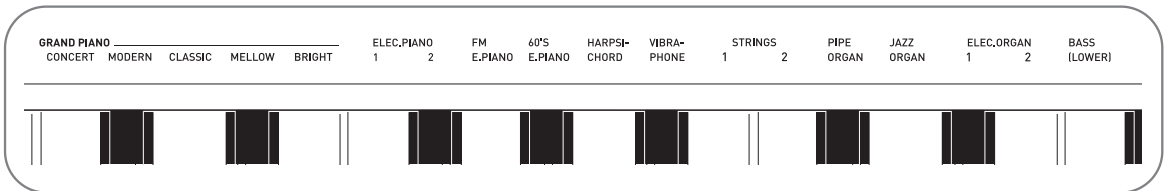
- 付属品の一覧と、別売品のご案内については27ページをご参照ください。
- 別売品については、店頭の商品カタログでより詳しい情報がご覧になれます。
<http://casio.jp/emi/catalogue/>

いろいろな音色を聴いてみましょう



音色を選んで弾いてみる

本機には、18種類の音色があります。



- 音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。

演奏を始めるには

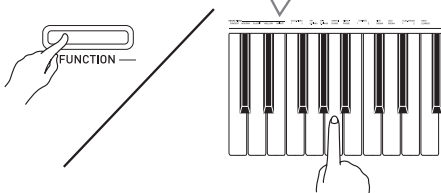
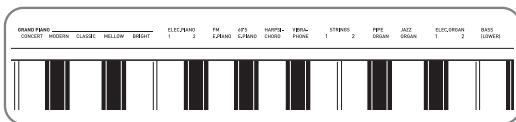
1. 音色を選びます。

- グランドピアノ音色（コンサート/モダン）またはエレクトリックピアノ1音色を選ぶには
 - **GRAND PIANO (CONCERT、MODERN)** ボタン、**ELEC.PIANO 1** ボタンのいずれかを押します。



- 押したボタンの音色が選ばれて、ランプが点灯します。

- その他の15音色を選ぶには
 - **FUNCTION** ボタンを押したままの状態、選びたい音色に対応している鍵盤を押します。



2. 音量を調節します。

- **VOLUME** つまみを使って調節します。

メモ

- 18種類の音色のうち、最初の5つはグランドピアノ音色です。それぞれ異なる長所を持ったおすすめの色です。演奏する曲やお好みに合わせてお選びください。コンサート、モダンの2音色は、ボタンを使って選べます。

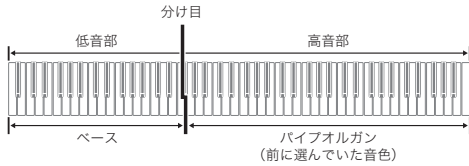
音色名	特徴
コンサート	リニアモーフィング*によるダイナミックで自然な音色変化をするフルコンサートグランドピアノ音色です。 ダンパーや共鳴などピアノの様々なニュアンスを追求した音色で、どんなジャンルのピアノ演奏にも適しています。
モダン	明るめのグランドピアノ音色です。 鍵盤タッチによる音量や音質の変化がつきやすく、残響効果（リバーブ）もやや深めにかかります。 ダイナミックで華やかな演奏効果をあげるのに適しています。
クラシック	アコースティックピアノに近い、自然な響きと演奏性を持つピアノ音色です。リバーブなどの派手な効果は控えめですが、共鳴効果などが分かりやすく、繊細な表現が可能です。 練習にも適しています。
メロウ	暖かみがあり落ち着いたピアノ音色です。
ブライト	明るくてクリアなピアノ音色です。

* コンピュータグラフィックスの「モーフィング技術」を応用して、フルコンサートグランドピアノからサンプリングした複数の強弱音をつなぎ目なく連続的に変化させます。

低音部専用の音色（ベース）について

8ページの手順1で、右端のベース音色（BASS（LOWER））を選んだ場合には、低音部（左側）の鍵盤だけが選んだ音色になり、高音部（右側）の鍵盤には前の音色がそのまま残ります。

- このように鍵盤が分かれて、それぞれ別々の音色で弾ける機能を「スプリット」と呼びます。



メモ

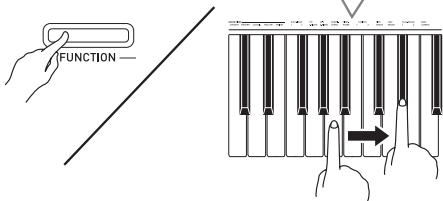
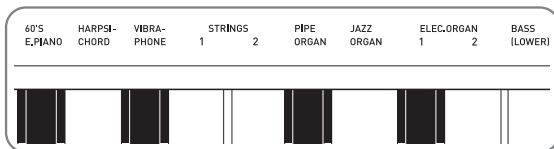
- ベース以外の音色を選ぶと、通常の1音色の状態に戻ります。
- 録音機能のトラック2の録音では、ベース音色は選べません。

2つの音色を重ねてみる (レイヤー)

本機では、2種類の音色を重ねて演奏できます。2つの鍵盤中、先に押した鍵盤の音色がメインの音色、後に押した鍵盤の音色がレイヤー音色として設定されます。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を1つずつ順に押します。

例：最初にHARPSICHORD鍵盤を押して、次にELEC.ORGAN 1鍵盤を押す。



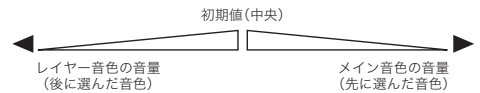
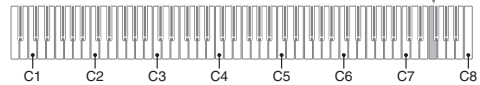
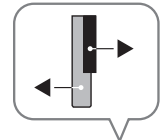
2. 元の1音色の状態に戻すには、GRAND PIANOボタンを押す、など音色を選び直します。

メモ

- BASS（LOWER）は、他の音色と重ねることはできません。
- 録音機能のトラック2の録音では、レイヤーの設定はできません。

重ねている2種類の音色の音量バランスを調整するには

1. FUNCTIONボタンを押したまま、以下の鍵盤を押します。



- FUNCTIONボタンを押したまま、上記2つの鍵盤を一緒に押すと、初期の設定になります。

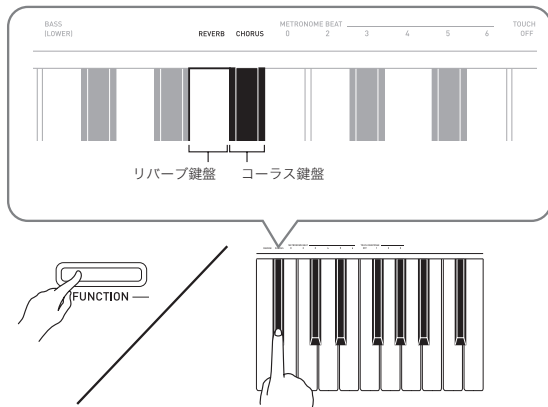
音色に効果をかけてみる (エフェクト)

リバーブ... 残響の効果

コーラス... 音が広がるような効果

1. FUNCTIONボタンを押したまま、リバーブまたはコーラス鍵盤を必要な回数分押しして設定値を選びます。

- リバーブまたはコーラス鍵盤を押すごとに、下の表にある回数だけピーという音が鳴り、現在の設定を示します。



- リバーブ

音が鳴る回数	設定
1 (長い音)	オフ
1 (短い音)	ルーム
2	小ホール
3	大ホール
4	スタジアム

- コーラス

音が鳴る回数	設定
1 (長い音)	オフ
1 (短い音)	コーラス効果薄め
2	コーラス効果中位
3	コーラス効果深め
4	フランジャー (音にうねりを与える)

■ DSPについて

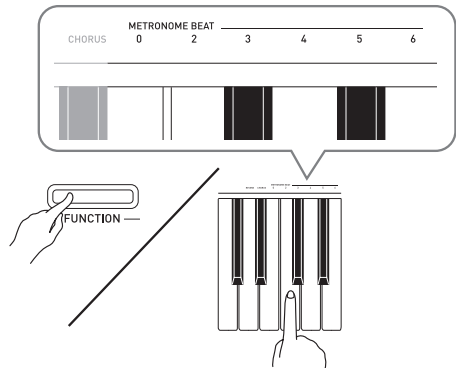
複合的な音響効果をデジタル処理で実現させる効果です。音色ごとにあらかじめかかっています。

メトロノームを鳴らしてみる

1. METRONOMEボタンを押します。

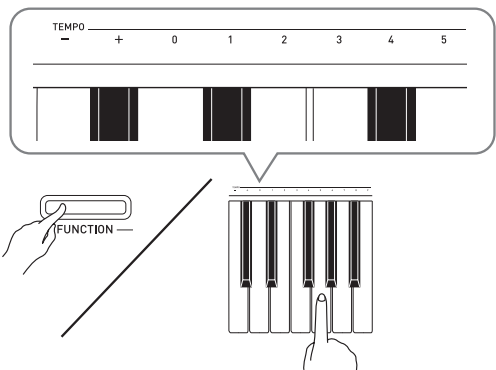
- メトロノームが鳴ります。
- START/STOP ▶/■ボタン上のランプが拍に合わせて点滅します。

2. FUNCTIONボタンを押したまま、METRONOME BEAT鍵盤を押して拍子を設定します。



- 拍子は、0、2、3、4、5、6拍子から選べます。「0」を設定すると、ベル音は鳴らずにクリック音のみが鳴ります。拍子に関わらず練習するのに便利です。

3. FUNCTIONボタンを押したまま、TEMPO鍵盤を押してテンポ (20~255) を設定します。



- +/-鍵盤を押すと、テンポが1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤 (0~9) を押して、テンポの値を直接入力することもできます。入力は必ず3桁で行ってください。

例：値“96”なら、“0→9→6”と入力します。

4. メトロノームを止めるには、METRONOMEボタン、またはSTART/STOP ▶/■ボタンを押します。

📌 メモ

- 手順3で+/-鍵盤を一緒に押すと、そのとき選ばれているミュージックライブラリーの曲のテンポ (録音機能を使っている場合は120) になります。

メトロノームの音量の設定

メトロノームが鳴っている／鳴っていないに関わらず設定できます。

1. FUNCTIONボタンを押したまま、「メトロノームの音量」鍵盤を押して音量(0~42)を設定します。

- 使用する鍵盤は、18ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- ▼▲鍵盤を押すと、メトロノームの音量が1ずつ上下します。

メモ

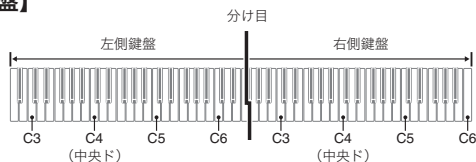
- ▼▲鍵盤を一緒に押すと、最初の設定(初期値)に戻ります。

鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることが出来ます。両端のペダルもそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。

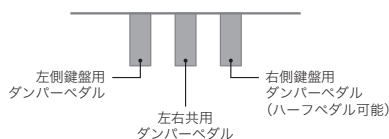
左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用もできます。

【鍵盤】



【ペダル】

- 別売のSP-33をお使いの場合



メモ

- 3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。

- 付属のSP-3をお使いの場合

右側鍵盤用ダンパーペダルにするには、DAMPER PEDAL端子につなぎます。

- ハーフペダルには対応しません。

1. 音色を選びます。

例：GRAND PIANO (MODERN)

2. FUNCTIONボタンを押しながら、METRONOMEボタンを押すごとに、デュエット設定のオン・オフが切り替わります。

- デュエットオンの時に、左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るように設定できます。詳細は、19ページの「デュエットのパン」の項目を参照してください。

重要!

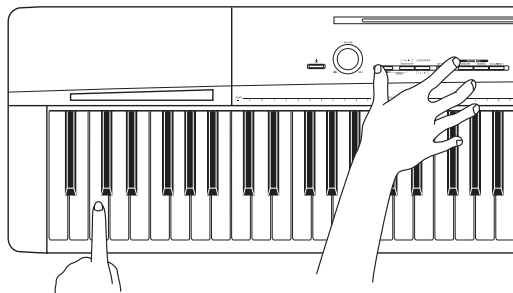
- デュエットオンでの録音(14ページ)はできません。

音域を変更するには

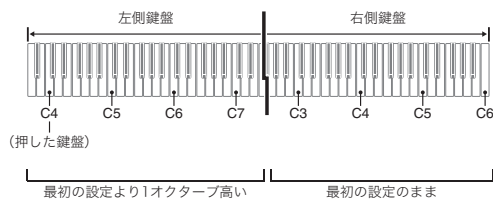
最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。

例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとする、最初の設定では音域が足りなくながちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。

1. FUNCTIONボタンとMETRONOMEボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4(中央ド)の高さに設定したいC(ド)の鍵盤を押します。そのままFUNCTIONボタンとMETRONOMEボタンを押し続けて、手順2へ進みます。



例：左端のC(ド)の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。

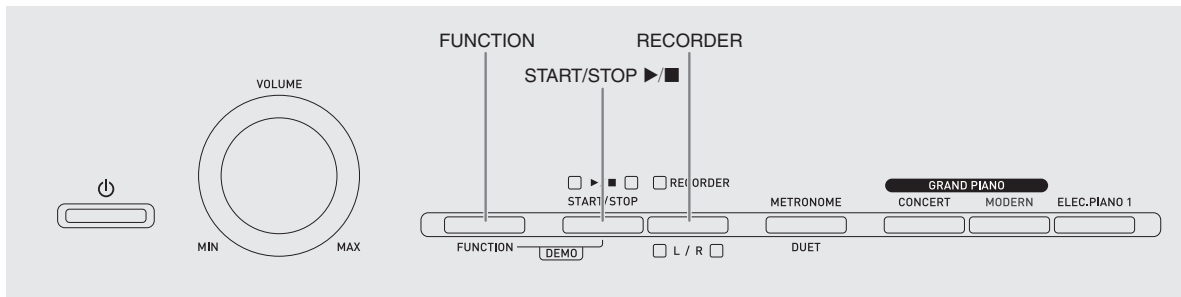


2. FUNCTIONボタンとMETRONOMEボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4(中央ド)の高さに設定したいC(ド)の鍵盤を押します。

メモ

- デュエットオンを解除してもう一度オンにすると、最初の音域設定に戻ります。

内蔵曲(ミュージックライブラリー)をデモ演奏で聴く



重要!

- 本機では、曲を変更すると数秒間、曲データの読み込みを行います。読み込み中は鍵盤演奏やボタン操作ができません。また、鍵盤演奏中にこの操作を行うと発音が停止します。

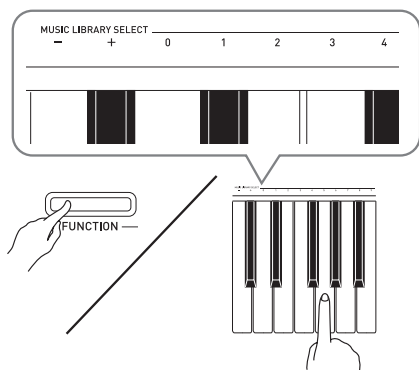
デモ演奏を聴いてみる

本機には60曲（ミュージックライブラリー）が内蔵されています。この全60曲を連続して聴くことができます。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、START/STOP ▶/■ボタンを押します。

- 01番から60番までの60曲を、番号順に繰り返しデモ演奏します。
- デモ演奏にあわせて、メロディー音色で鍵盤演奏できます。

2. デモ演奏の曲を変更するには、FUNCTIONボタンを押したまま、MUSIC LIBRARY SELECT鍵盤を押します。



- +/- 鍵盤を押すと、曲の番号が1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0～9）を押して、曲の番号を直接入力することもできます。

例：08番の曲なら、“0→8”と入力します。

3. デモ演奏を止めるには、START/STOP ▶/■ボタンを押します。

メモ

- デモ演奏中は、上記の曲変更と演奏停止以外の操作はできません。

ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる

本機には、ミュージックライブラリー内蔵曲（01～60番）とパソコン*から本機に読み込んだ曲（61～70番）があります。この中から1曲ずつ選んで聴いてみるができます。

※ インターネットでダウンロードした曲をパソコンから転送します。詳しくは、23ページの「録音した曲をパソコンに保存する/パソコンの曲データを本機に読み込む」を参照してください。

1. 28ページのソングリストで、選びたい曲の番号を調べます。

2. FUNCTIONボタンを押したまま、MUSIC LIBRARY SELECT鍵盤を押して、曲を選びます。

- 操作方法は、前項「デモ演奏を聴いてみる」の手順2を参照してください。

3. START/STOP ▶/■ボタンを押します。

- 選んだ曲の演奏が始まります。

4. 演奏を止めるには、もう一度START/STOP ▶/■ボタンを押します。

- 曲が最後まで演奏されると自動的に演奏が止まります。

メモ

- +/- 鍵盤を一緒に押すと、01番の曲が選ばれます。
- 演奏のテンポや曲の音量を設定できます。設定方法は、17ページの「その他の設定」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を練習してみる

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

メモ

- ミュージックライブラリーには、連弾曲が入っています。連弾曲を選んだ場合は、第1ピアノ<Primo>または第2ピアノ<Secondo>の音を消して、自分で弾く練習ができます。

準備

- 曲を選び、テンポを設定しておきます。（17ページの「その他の設定」参照）。
- 曲を演奏しているときは、曲調に変化をつけるためにテンポが変化します。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDER (L/R)ボタンを押して、音を消したいパートを選びます。

- ボタンを押すごとにボタン下の2つのランプがそれぞれ点灯/消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。



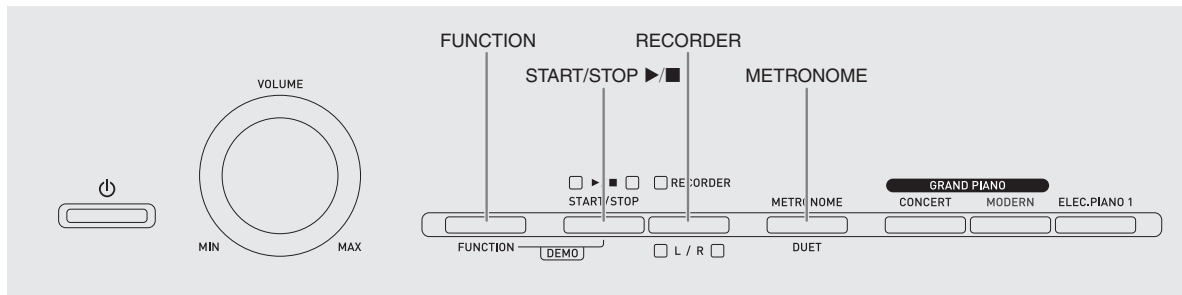
2. START/STOP ▶/■ボタンを押します。

- 演奏が始まります。手順1で選んだパートは鳴りません。

3. 音を消したパートを自分で弾きます。

4. 曲を止めるには、もう一度START/STOP ▶/■ボタンを押します。

演奏を録音／再生してみる(録音機能)



本機で演奏した内容を録音して、再生できます。

トラックについて

曲は2つのトラック（録音内容が記録される場所）で構成されています。トラック1、トラック2と順番に録音していけば、録音後に2つのトラックを1つの曲として、一度に再生することができます。



録音できる容量

- 約5,000音符まで録音できます。
- 録音できる容量が残り少なくなると、ランプの点滅が速くなります。
- 演奏の途中で録音できる容量をこえると、自動的に録音が止まります。

録音される内容

- 鍵盤演奏
- 演奏に使った音色
- ペダル操作
- リバース／コーラス設定（トラック1のみ）
- テンポ設定（トラック1のみ）
- レイヤー設定（トラック1のみ）
- スプリット設定（トラック1のみ）
- オクターブシフト設定（トラック1のみ）

録音内容の保持

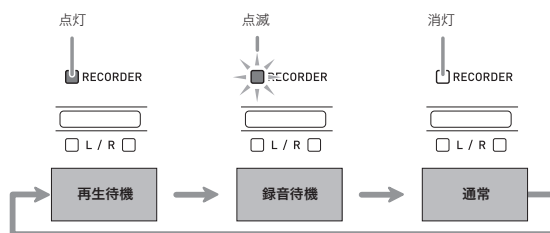
- 新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 録音中に本機の電源が切れると、それまで録音したデータが消去される場合があります。誤って電源を切らないようにご注意ください。

重要!

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

RECORDERボタンの使い方

RECORDERボタンを、1回押すごとに以下のように状態が切り替わります。



演奏を録音してみる

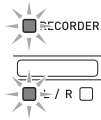
トラック1か2を選んで録音し、さらに録音したトラックの再生に合わせてもう一方のトラックに録音できます。

トラックを選んで録音するには

1. RECORDERボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。



- Lランプが点滅し、トラック1へ録音待ちの状態になります。



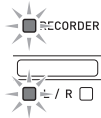
2. 録音するトラックを変更するには、FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDER (L/R) ボタンを押します。

- 録音したいトラックのランプを点滅させます。

トラック1：Lランプ

トラック2：Rランプ

例：トラック1を選ぶ



3. 録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

- 音色（8ページ）
- エフェクト（10ページ）

メモ

- メトロノームを鳴らしたい場合は、拍子とテンポを設定して、METRONOMEボタンを押します。設定方法は10ページの「メトロノームを鳴らしてみる」を参照してください。

4. 演奏を開始します。

- 自動的に録音が始まります。

5. 録音を止めるには、START/STOP ▶/■ボタンを押します。

- RECORDERボタンと録音したトラックのランプが、点滅から点灯に変わります。
- 録音した内容をすぐに再生したい場合は、もう一度START/STOP ▶/■ボタンを押します。

6. 録音や再生が終わったら、RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを消灯させておきます。

録音済みのトラックの再生を聴きながら、もう一方のトラックに録音するには

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



2. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDER (L/R) ボタンを押して、録音済みのトラックのランプを点灯させます。

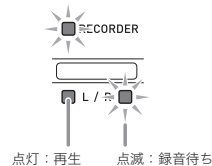
3. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点滅させます。

- Lランプが点滅します。

4. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDER (L/R) ボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音するトラックのランプを点滅させます。

例：録音済みのトラック1を聴きながら、トラック2へ録音する



点灯：再生 点滅：録音待ち

5. 必要に応じて、録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

6. START/STOP ▶/■ボタンか鍵盤を押して、演奏を開始します。

- トラック1の再生と、トラック2への録音が同時に始まります。

7. 録音を止めるには、START/STOP ▶/■ボタンを押します。

録音した演奏を再生してみる

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



メモ

- 両方のトラックに録音済みの場合、一方のトラックの音を消して再生できます。音を消したいトラックのランプを消灯させます。

2. START/STOP ▶/■ボタンを押します。

- 録音した内容が再生されます。

メモ

- 再生時は、テンポを変えることができます。
- 途中で止める時には、もう一度START/STOP ▶/■ボタンを押します。

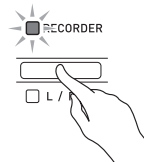
録音した内容を消去するには

録音した内容をトラック単位で消去します。

重要!

- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

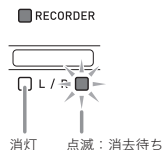
1. RECORDERボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。



2. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDER (L/R)ボタンを押して、消去したいトラックを選びます。

3. RECORDERボタンを押し続けて、ボタンのランプを点灯させます。

- 手順2で選んだトラックのランプが点滅します。
- 例：消去するトラックにトラック2を選んだ場合



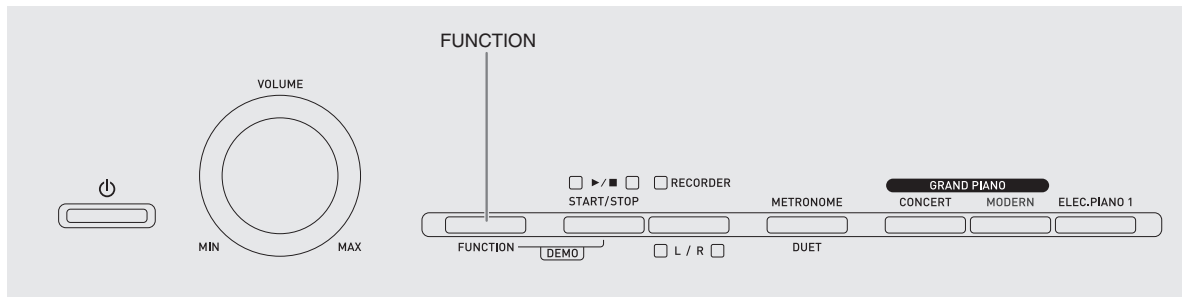
4. もう一度、FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDER (L/R)ボタンを押します。

- 選んだトラックの録音内容が消去され、再生待機の状態になります。
- 操作を中止したい場合は、RECORDERボタンを2回押してボタンのランプを消灯させます。

メモ

- 上記の手順3から、手順4で消去を実行するまでの間は、RECORDER (L/R) ボタン以外の操作はできません。

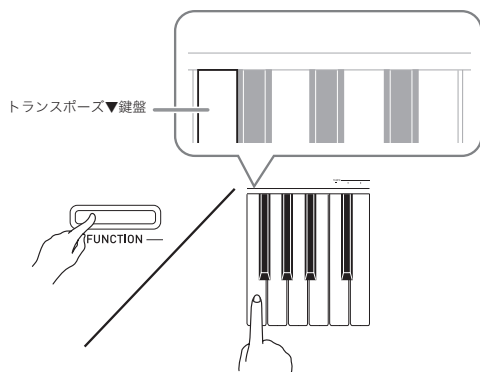
その他の設定



FUNCTIONボタンと鍵盤を使って、音色や曲を選ぶだけでなく、音の効果や鍵盤のタッチなどのさまざまな設定ができます。

設定するには

1. 設定したい項目を19～21ページの「設定項目一覧表」から選び、内容を確認します。
2. その項目の設定に使用する鍵盤の位置を、18ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認します。
3. FUNCTIONボタンを押しながら、手順2で確認した鍵盤を押して設定を行います。
 - 設定が完了すると、お知らせのための操作音が鳴ります。例：トランスポーズの設定で、半音下げるには、トランスポーズ▼鍵盤を一回押します。



4. FUNCTIONボタンから指を離して、設定を完了します。

メモ

- 手順3で操作音が鳴らないようにすることもできます。19～21ページの「設定項目一覧表」の中の「㊦ 操作音」を参照してください。

鍵盤を押して設定する操作のタイプについて

設定する項目によって、鍵盤操作のタイプが異なります。操作タイプには以下の4種類があります。

タイプA：設定値を直接選ぶ。

例：STRINGS鍵盤を押して、音色の「ストリングス」を選びます。

タイプB：+/-や▼▲鍵盤で、設定値を1ずつ上下させる。

- 鍵盤を押し続けると、設定値が連続して変化します。
- 2つの鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

タイプC：数値入力鍵盤（0～9）で2桁以上の設定値を入力する。

例：テンポ120なら、「1→2→0」と入力します。

タイプD：1つの鍵盤で、オン・オフの切り替えや、設定値を変更する。

- 鍵盤を押すと、設定値に応じてピーという音が鳴ります。
- オフに切り替えたときは、音が長く鳴ります。

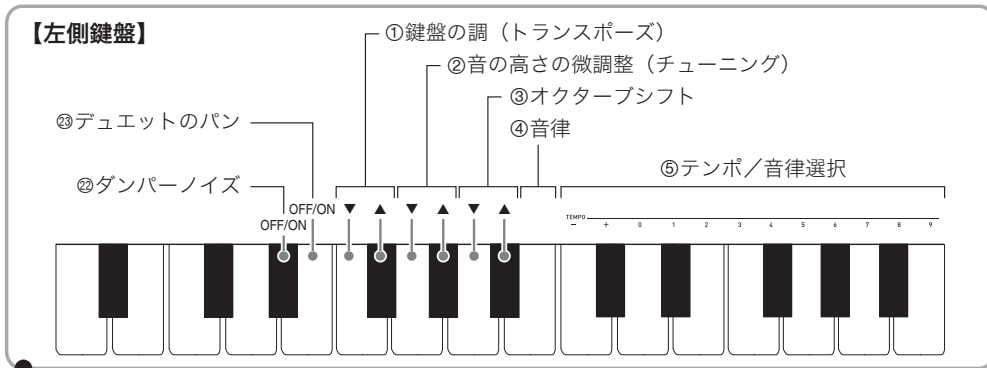
例：リバーブの効果がかかっていない（オフ）のときに「小ホール」へ設定値を変更したい場合、リバーブ鍵盤を2回押します（音が2回鳴ります）。

メモ

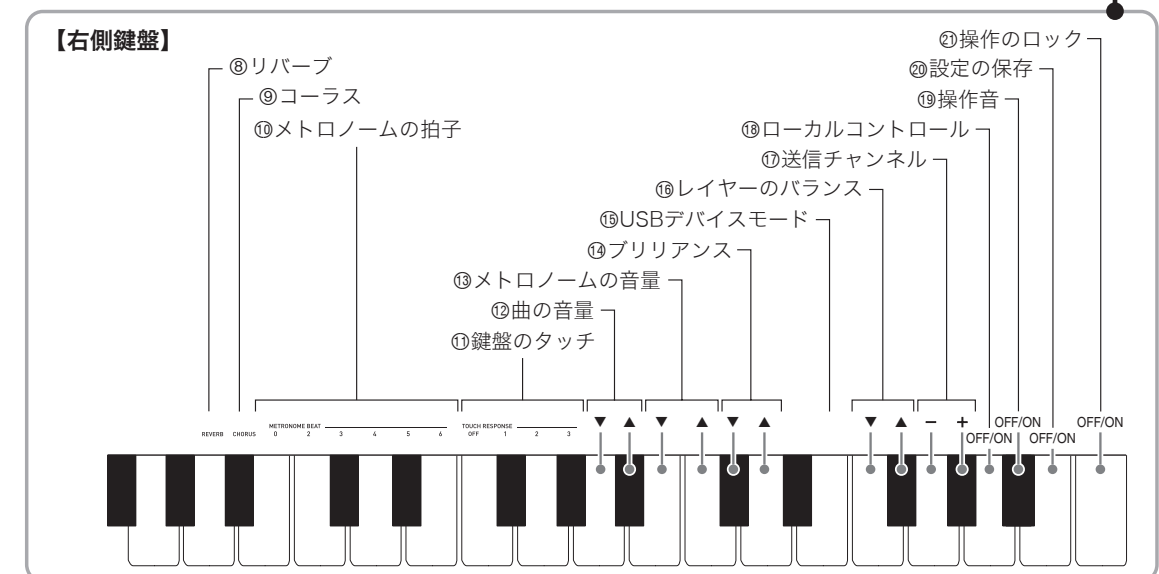
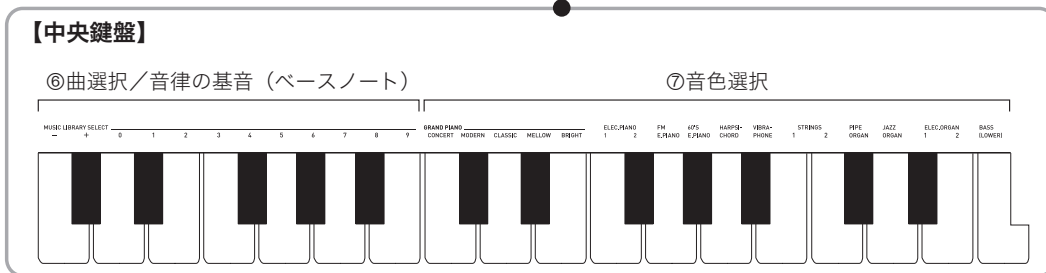
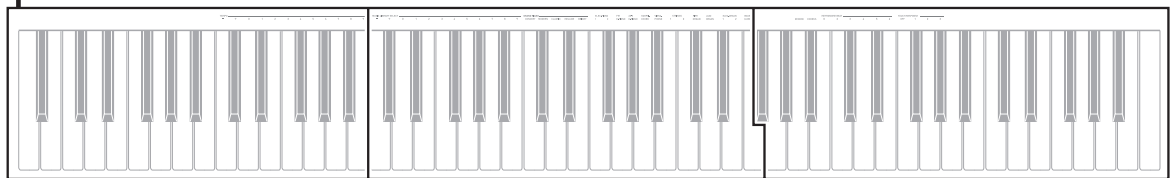
- 19～21ページの「設定項目一覧表」の中の「操作タイプ」から、設定したい項目の操作タイプを確認してください。

設定に使用する鍵盤一覧

- ①～③は19～21ページの「設定項目一覧表」での項目番号です。



【全体図】



設定項目一覧表

■ 音色についての設定

項目	設定値	操作タイプ (17ページ参照)	内容	備考
⑦ 音色選択	8ページ参照 初期値：GRAND PIANO (CONCERT)	A	鍵盤の音色を選びます。 (8ページ参照)	
⑧ リバーブ	オフ、1～4 初期値：2	D	音の残響効果を設定します。 (10ページ参照)	
⑨ コーラス	オフ、1～4 初期値：2	D	音に広がりを与える効果を 設定します。 (10ページ参照)	
⑭ プリリアンス	-3～0～3 初期値：0	B	音の明るさを設定します。 +にすると、明るく硬い感 じの音になります。-にす ると、まるでやかな柔らか い感じの音になります。	<ul style="list-style-type: none"> +/-を一緒に押すと、最初の設定 (初期値：0)に戻ります。
⑯ レイヤーのバランス	-24～0～24 初期値：0	B	メインパートとレイヤー パートの音量バランスを設 定します。 (9ページ参照)	
⑳ ダンパーノイズ	オフ、オン 初期値：オン	D	ダンパーノイズの有無を設 定します。 (7ページ参照)	
㉑ デュエットのパン	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンにした場合、デュエッ ト時に左側鍵盤の音は左ス ピーカーからのみ、右側鍵 盤の音は右スピーカーから のみ出ます。 (11ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ音色のときに有効になります。オンに した場合は、リバーブをかけることはできませ ん。

■ 曲/メトロノームについての設定

項目	設定値	操作タイプ (17ページ参照)	内容	備考
⑤ テンポ (TEMPO)	20～255 初期値：120	B (+/-) C (0～9)	ミュージックライブラリー 曲やメトロノーム、録音機 能での録音/再生などのテ ンポを設定します。 (10ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 数値入力鍵盤 (0～9) を使って設定する場 合は、必ず3桁で入力してください。 例：テンポ90を入力するには、“0→9→0” と最初に“0”を入力する。 録音機能の使用中には、+/-鍵盤を一緒に押 すと“120”になります。
⑥ 曲選択 (MUSIC LIBRARY SELECT)	01～70 初期値：01	B (+/-) C (0～9)	ミュージックライブラリー 曲を選びます。 (12ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 数値入力鍵盤 (0～9) を使って設定する場 合は、必ず2桁で入力してください。 例：08番を入力するには、“0→8”と最初 に“0”を入力する。 録音機能の使用中には、設定できません。
⑫ 曲の音量	00～42 初期値：42	B	ミュージックライブラリー 曲の音量を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中には設定できません。
⑩ メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT)	0、2、3、4、5、6 初期値：4	A	メトロノームの拍子を設定 します。 (10ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は、設 定できません。
⑬ メトロノームの 音量	00～42 初期値：36	B	メトロノームの音量を設定 します。 (11ページ参照)	

■ 鍵盤の設定

項目	設定値	操作タイプ (17ページ参照)	内容	備考
① 鍵盤の調 (トランスポーズ)	-12~0~12 初期値：0	B	鍵盤全体の調を、半音単位で上下させることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中と、デュエット機能のオン中は設定できません。 調を高く設定している場合、音色によっては最高鍵域で音の高さが不明瞭になる場合があります。
② 音の高さの微調整 (チューニング)	415.5Hz~440.0Hz~465.9Hz 初期値：440.0Hz	B	本機全体のピッチを、A4=440Hzから0.1Hz単位で上下させることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
③ オクターブシフト	-2~0~2 初期値：0	B	鍵盤音域をオクターブ単位で変更します。	<ul style="list-style-type: none"> メイン音色パートおよびレイヤー音色パートに設定できます。 スプリット音色パートには設定できません。
④ 音律 ⑤ 音律選択 ⑥ 音律の基音 (ベースノート)	音律：00~16 ベースノート： -、+、0~9 (C~B) 初期値： 音律：00 (平均律) ベースノート：C	FUNCTIONボタン を押し続けたまま、 以下の鍵盤を順に押し して設定します。 1. 音律④鍵盤を押す。 2. 音律選択⑤鍵盤で、 音律を選ぶ。 3. 音律の基音⑥鍵盤 で、ベースノートを選 ぶ。	鍵盤の音律(スケール)を 設定して通常の音律(12 平均律)以外の音律を使う 音楽(インド音楽、アラビ ア音楽、古典音楽など)の 演奏ができます。	<p><音律></p> <p>00：平均律 (Equal) 01：純正律長調 (Pure Major) 02：純正律短調 (Pure Minor) 03：ピタゴラス音律 (Pythagorean) 04：キルンベルガー第III法 (Kirnberger 3) 05：ヴェルクマイスター第1技法第3法 (Werckmeister) 06：ミーントーン (Mean-Tone) 07：ラスト (Rast) 08：バヤティ (Bayati) 09：ヒジャーズ (Hijaz) 10：サバ (Saba) 11：ダシュティ (Dashti) 12：チャハルガー (Chahargah) 13：セガー (Segah) 14：グジャリ・トーディ (Gurjari Todi) 15：チャンドラコウンス (Chandrakauns) 16：チャルケシ (Charukeshi)</p> <p><ベースノート></p> <p>-：C / +：C[#] / 0：D / 1：E^b / 2：E / 3：F / 4：F[#] / 5：G / 6：A^b / 7：A / 8：B^b / 9：B</p>
⑩ 鍵盤のタッチ (TOUCH RESPONSE)	オフ (OFF)、1~3 初期値：2	A	鍵盤を弾くときの強弱感 度を設定します。 設定値が小さいほど、弱 めのタッチで大きな音が出 ます。	

■ MIDI関連/その他の設定

項目	設定値	操作タイプ (17ページ参照)	内容	備考
⑮ USBデバイスモードの設定	MIDI、ストレージ 初期値：MIDI	—	本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、MIDIになります。本機で録音した曲をパソコンに保存したり、パソコンの曲データを本機に読み込む場合は、USBデバイスモードをストレージに切り替えます。(23ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> • ストレージへの切り替えが完了すると、GRAND PIANO (CONCERT、MODERN) ボタン、ELEC.PIANO 1 ボタンのランプが全て点滅し、その他のランプは消灯します。 • この間は、本体操作ができなくなります。 • 設定 (MIDI ↔ ストレージ) は同じ操作をするごとに切り替わります。
⑰ 送信チャンネル	01~16 初期値：01	B	本機 MIDI メッセージを外部の機器へ送信するチャンネルを、1~16チャンネルの中から選びます。	
⑱ ローカルコントロール	オフ、オン 初期値：オン	D	オフに設定すると、鍵盤と音源が切り離され、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> • ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
⑲ 操作音	オフ、オン 初期値：オン	D	オフに設定すると、 FUNCTION ボタンを押しながら鍵盤で設定を行ったときに、操作音が鳴らなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> • 本設定は、本機の電源を切った後も保存されます。 • ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。
⑳ 設定の保存	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンに設定すると、その時点の各種設定内容※1が保存され、本機の電源を入れ直したときにその設定になります。オフに設定すると、電源を入れ直したとき、本機全体の設定※2がリセットされます。	<ul style="list-style-type: none"> • ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、デュエットオン中、および録音機能の使用中は設定できません。 ※1 以下の設定は保存されません。 <ul style="list-style-type: none"> • デュエット機能のオン/オフ • 曲のLR (パート) 選択 • ローカルコントロール ※2 操作音のオン/オフ設定は除く。
㉑ 操作のロック	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンに設定すると、ボタンがロックされて操作できなくなります (⏻ (電源) ボタンとロック解除の操作を除く)。誤ってボタンに触って設定が変わったりするのを防止できます。	<ul style="list-style-type: none"> • ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。

パソコンとの接続について

パソコンと接続する

この楽器とパソコンを接続して演奏情報（MIDIデータ）の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフト（市販品）へ送って記録したり、パソコンからこの楽器へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

● 対応OS

Windows Vista® *1
Windows® 7 *2
Windows® 8 *3
Windows® 8.1*4
Mac OS® X (10.3.9、10.4.11、10.5.X、10.6.X、10.7.X、10.8.X、10.9.X)

*1：Windows Vista（32bit版）

*2：Windows 7（32bit版、64bit版）

*3：Windows 8（32bit版、64bit版）

*4：Windows 8.1（32bit版、64bit版）

● USB端子

重要!

- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。

接続方法

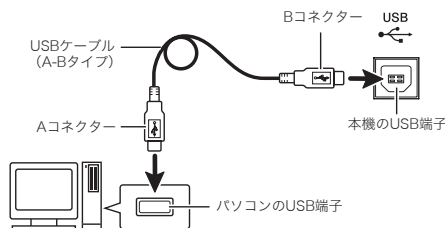
重要!

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず下記の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。

- パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。

2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。



3. 本機の電源を入れます。

- 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。

4. パソコンの音楽ソフト（市販品）を起動させます。

5. パソコンの音楽ソフトの設定で、MIDIデバイスとして「CASIO USB-MIDI」を選びます。

- MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

重要!

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。

メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルをつないだままパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。
- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://casio.jp/support/emi/>

MIDI機能を使ってみる

MIDIについて

電子楽器同士、あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことで。

メモ

- MIDIインプリメンテーションの詳細は、<http://casio.jp/support/emi/> を参照してください。

19～21ページの「設定項目一覧表」の中の「送信チャンネル」「ローカルコントロール」をご参照ください。

録音した曲をパソコンに保存する/ パソコンの曲データを本機に読み込む

本機で録音した曲（以下、「録音機能」の曲、と呼びます）をパソコンに保存したり、カシオのホームページからパソコンにダウンロードした曲を本機のユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に読み込んで再生したりすることができます。

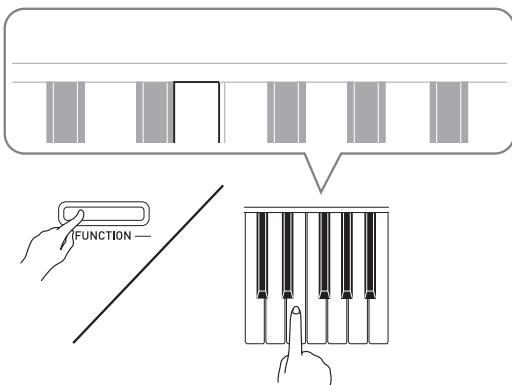
重要!

- 本機とパソコンの間でデータを送受信中に、本機の電源を切ると本機内蔵メモリーのデータが破壊されることがあります。内蔵メモリーのデータが破壊された場合は、次回電源を入れたときに内蔵メモリーのフォーマットが実行されるため、電源を入れてからフォーマット完了（使用できるようになる）まで、約20秒前後の時間がかかります。

1. 本機とパソコンを接続します（22ページ「パソコンと接続する」手順1～3）。

- MIDIソフトを立ち上げている場合は、閉じてください。

2. 本機のUSBデバイスモードをストレージに切り替えます。



- FUNCTION** ボタンを押しながら、USBデバイスモード鍵盤（18ページ）を押します。
- 切り替えが完了すると、**GRAND PIANO (CONCERT、MODERN)** ボタン、**ELEC.PIANO 1** ボタンのランプが全て点滅し、その他のランプは消灯します。
- 詳しくは、19～21ページの「設定項目一覧表」の中の「USBデバイスモードの設定」（21ページ）を参照してください。

3. パソコンの「コンピュータ※」をダブルクリックします。

※Windows Vista、Windows 7の場合。

Windows 8の場合は、任意のフォルダを開き、ナビゲーションウィンドウから「コンピュータ」をクリックしてください。

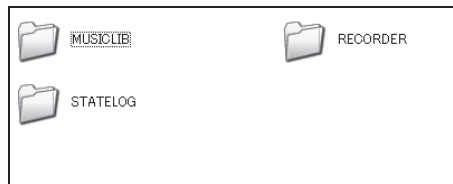
Windows 8.1の場合は、任意のフォルダを開き、ナビゲーションウィンドウから「PC」をクリックしてください。

Macの場合は、デスクトップに「PIANO」が表示されるので、手順3をとばして手順4へ進んでください。

- 「リムーバブル記憶域があるデバイス」のなかに、パソコンにつながった本機のメモリーが「PIANO」という名前で表示されています。

4. 「PIANO」をダブルクリックして開きます。

- 「PIANO」内には、フォルダ「MUSICLIB」 & 「RECORDER」が入っています。
- ユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に曲を読み込むには、「MUSICLIB」内に作られているサブフォルダ「61」～「70」に曲のデータを保存します。例えば、サブフォルダ「61」に曲のデータを保存すると、本機はミュージックライブラリー 61番として曲を読み込みます。
- 「録音機能」の曲をパソコンに保存したり戻したりするには、「RECORDER」に曲のデータを入れます。



データの種類	フォルダ名	ファイル名と拡張子※
ユーザーソング	MUSICLIB	.MID : SMF形式データ (フォーマット0/1) .CM2 : カシオオリジナル形式データ
「録音機能」の曲	RECORDER	BIDRECO1.CSR : カシオオリジナル形式データ

※ 保存、読み込みの操作をする前に拡張子が上記の内容になっていることを必ずご確認ください。
「録音機能」の曲の場合、ファイルは上記の名前および拡張子に変更してください。

- Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1では、拡張子が表示されないように初期設定されています。その場合は以下の手順で、拡張子を表示させます。

- Windows Vista、Windows 7の場合
1. [スタート] ボタンの画像をクリックし、[コントロールパネル]、[デスクトップのカスタマイズ]、[フォルダ オプション] の順にクリックします。
 2. [表示] タブをクリックし、[詳細設定] の [登録されている拡張子は表示しない] チェックボックスをクリックしてチェックを外します。
 3. [OK] をクリックします。

- Windows 8、Windows 8.1の場合
1. 任意のフォルダを開きます。
 2. [表示] をクリックし、[表示/非表示] の項目にある [ファイル名拡張子] のチェックボックスをクリックしてチェックを入れます。

■ ユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に曲を読み込むには

読み込みたい曲のファイル（MIDまたはCM2）を、MUSICLIB内のサブフォルダ（「61」～「70」）にコピーします。

- サブフォルダ内に拡張子MIDとCM2の両ファイルがある場合、.MIDのデータが本体に読み込まれます。

■ [録音機能] の曲をパソコンに保存するには

RECORDERフォルダ内の [録音機能] の曲ファイルをパソコンの保存先フォルダにコピーします。また、以前にパソコンに保存した [録音機能] の曲ファイルをRECORDERフォルダにコピー（上書き）することで、[録音機能] の曲を保存時の状態に戻すことができます。

5. ファイルの移動が終わったら、本機のUSBデバイスモードをMIDIに戻します。

- Macの場合は、パソコンで「PIANO」フォルダを選んで取り出し操作（ゴミ箱にドラッグアンドドロップするなど）を行ってください。
- **FUNCTION** ボタンを押しながら、USBデバイスモード鍵盤（18ページ）を押します。
- MIDIモードに戻すと、MUSICLIBおよびRECORDERフォルダのファイルがユーザーソングおよび [録音機能] の曲に読み込まれます。

重要!

- データのやり取りにエラーが生じた場合：
START/STOP ▶/■ ボタンのランプ（2つ）、**GRAND PIANO (CONCERT, MODERN)** ボタン、**ELEC.PIANO 1** ボタンのランプが全て点灯します。その他のランプは全て消灯します。

■ カシオホームページのソングデータのご利用について

CASIO Music Site (<http://music.casio.co.jp/>) の以下のサービスから、ソングデータをダウンロードして本機に転送することができます。

- インターネット・ソングバンク
- インターネット楽譜ナビ

メモ

- 本機では、ピアノ曲のみ使用できます。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に、または家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守の上、適切なご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

困ったときは

現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみが“MIN”の位置にある。 ヘッドホンがつながっている。またはヘッドホンの変換プラグがPHONES端子に残っている。 ローカルコントロールの設定がオフになっている。 	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみを“MAX”の方に動かす。 ヘッドホンまたは変換プラグをPHONES端子から抜く。 ローカルコントロールの設定をオンにする。 	<p>☞ 8ページ</p> <p>☞ 6ページ</p> <p>☞ 21ページ</p>
ピッチがずれて聴こえる。	<ol style="list-style-type: none"> 鍵盤の調（トランスポーズ）の設定が“0”以外になっている。 音の高さの微調整（チューニング）の設定が“440.0Hz”以外になっている。 オクターブシフトが設定されている 音律が設定されている。 	<ol style="list-style-type: none"> 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。 設定を“440.0Hz”にする。または、電源を入れ直す。 オクターブシフトの設定を“0”にする。 音律の設定を“00”（平均律）にする。 	<p>☞ 20ページ</p> <p>☞ 20ページ</p> <p>☞ 20ページ</p> <p>☞ 20ページ</p>
音の鳴り方や効果がおかしい。電源を入れ直しても変わらない。 例：弾き方（タッチ）を変えても音に強弱がつかない。	「設定の保存」がオンになっている。	「設定の保存」をオフにして、電源を入れ直す。	☞ 21ページ
パソコンと接続したとき、データの送受信ができない。	—	<ol style="list-style-type: none"> 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する。 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。 	☞ 22ページ
電源を入れてから使用できるようになるまで、かなり時間がかかる。	前回の電源オフ時、本機とパソコンの間でデータを送受信中であったため、本機内蔵メモリーのデータが破壊された。内蔵メモリーのフォーマットが実行されるため。	電源を入れてから内蔵メモリーのフォーマット完了まで、約20秒前後の時間がかかります。使用できるようになるまでお待ちください。また、本機とパソコンの間でデータを送受信中に電源を切らないようにしてください。	☞ 23ページ
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理※によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※ 元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。		
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえる。	レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。		

製品仕様

型式	PX-160BK/PX-160GD
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大128音
音色	18種類 <ul style="list-style-type: none"> ・レイヤー可（ベース音色を除く） ・スプリット可（低域はベース音色のみ）
エフェクト	プリリアンス（-3~0~3）リバーブ（4種）、コーラス（4種）、DSP、ダンパーレゾナンス（ダンパーノイズのオン/オフ）
メトロノーム	<ul style="list-style-type: none"> ・拍子：0, 2, 3, 4, 5, 6 ・テンポ範囲：20~255
デュエット	音域変更可（-2~+1オクターブ）
ミュージックライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・曲数：60曲、ダウンロード曲：10曲（1曲あたり最大約90KB、10曲で約900KB）※ ※表記容量は、1KB=1024バイト、1MB=1024²バイト換算です。 ・曲の音量：調節可 ・パートのオン/オフ：L、R
録音機能	<ul style="list-style-type: none"> ・方式：リアルタイム録音、再生 ・曲数：1曲 ・録音トラック数：2トラック ・容量：合計約5,000音符 ・録音内容の保持：内蔵フラッシュメモリー
ペダル	ダンパー（別売のSP-33使用時はソフト、ソステヌートも可）
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチセレクト：3種類、オフ ・トランスポーズ：2オクターブ（-12~0~12） ・チューニング：A4=415.5Hz~440.0Hz~465.9Hz（可変） ・音律 ・オクターブシフト ・操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信
入出力端子	<ul style="list-style-type: none"> ・PHONES端子：ステレオミニジャック×2 出カインピーダンス3Ω 出力電圧1.5V（RMS）MAX ・電源端子：DC12V ・ラインアウト [R] [L/MONO] 端子：標準ジャック×2 出カインピーダンス 2.3KΩ 出力電圧 1.8V（RMS）MAX ・USB端子：タイプB ・ダンパーペダル端子：標準ジャック ・ペダルコネクター
スピーカー	φ12cm×2(出力8W+8W)
電源	家庭用AC100V電源使用 ACアダプター AD-A12150LW使用 <ul style="list-style-type: none"> ・オートパワーオフ機能：約4時間、キャンセル可能
消費電力	12V --- 18W
サイズ	幅132.2×奥行29.3×高さ14.1cm
質量	約11.1kg
付属品	ACアダプター（AD-A12150LW）、ペダル（SP-3）1本、譜面立て、取扱説明書（本書）、保証書、楽譜集、安全上のご注意

- ・改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
ペダル	SP-3 SP-20 SP-33*
イス	CB-5 CB-7 CB-30

※ スタンド CS-67P使用時のみ

商品名	品番
スタンド	CS-53P CS-67P
ソフトケース	SC-700P

カシオ電子楽器取扱店で購入可能。

- 店頭のカシオ電子キーボードカタログでより詳しい情報がご覧になれます。

<http://casio.jp/emi/catalogue/>

音色リスト

音色名	プログラムチェンジ	バンクセレクトMSB
GRAND PIANO CONCERT	0	0
GRAND PIANO MODERN	0	1
GRAND PIANO CLASSIC	0	2
GRAND PIANO MELLOW	0	3
GRAND PIANO BRIGHT	0	4
ELEC.PIANO 1	4	0
ELEC.PIANO 2	4	1
FM E.PIANO	5	0
60'S E.PIANO	4	2
HARPSICHORD	6	0
VIBRAPHONE	11	0
STRINGS 1	49	0
STRINGS 2	48	0
PIPE ORGAN	19	0
JAZZ ORGAN	17	0
ELEC.ORGAN 1	16	0
ELEC.ORGAN 2	16	1
BASS (LOWER)	32	0

ソングリスト

NO.	曲名
01	ノクターン 作品9の2
02	幻想即興曲 作品66
03	エチュード 作品10の3 <別れの曲>
04	エチュード 作品10の5 <黒鍵>
05	エチュード 作品10の12 <革命>
06	エチュード 作品25の9 <蝶々>
07	プレリュード 作品28の7
08	ワルツ 作品64の1 <小犬のワルツ>
09	ワルツ 作品64の2
10	楽興の時 第3番
11	即興曲 作品90の2
12	軍隊行進曲 第1番 (連弾)
13	春の歌「無言歌 第5集」より
14	楽しき農夫「ユーгент・アルバム」より
15	見知らぬ国と人々について「子供の情景」より
16	トロイメライ「子供の情景」より
17	タンブラン
18	メヌエット BWV Anh.114 「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィーア小曲集」より
19	インヴェンション 第1番 BWV 772
20	インヴェンション 第8番 BWV 779
21	インヴェンション 第13番 BWV 784
22	プレリュード 第1番 BWV 846 「平均律クラヴィーア曲集 第1巻」より
23	かっこう
24	ガボット
25	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
26	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
27	ソナタ K.545 第1楽章
28	ソナタ K.331 第3楽章 <トルコ行進曲>
29	ロンド K.485
30	エリーゼのために
31	トルコ行進曲
32	ソナタ 作品13 <悲愴> 第1楽章
33	ソナタ 作品13 <悲愴> 第2楽章
34	ソナタ 作品13 <悲愴> 第3楽章
35	ソナタ 作品27の2 <月光> 第1楽章
36	ラプソディ 第2番
37	ワルツ 作品39の15 (連弾)
38	愛の夢 第3番
39	花の歌
40	乙女の祈り
41	クシコス・ポスト
42	ユーモレスク 作品101の7
43	メロディー「叙情小曲集 第2集」より
44	シシリエンヌ 作品78
45	子守唄「ドリー組曲」より (連弾)
46	アラバスク 第1番
47	亜麻色の髪の乙女「前奏曲集」より
48	バスビエ「ベルガマスク組曲」より
49	ジムノペディ 第1番
50	ジュ・トゥ・ヴ
51	愛の挨拶
52	エンターテイナー
53	メーブル・リーフ・ラグ
54	アラバスク「25の練習曲 作品100」より
55	スティリアンヌ「25の練習曲 作品100」より
56	アヴェ・マリア「25の練習曲 作品100」より
57	帰途「25の練習曲 作品100」より
58	貴婦人の乗馬「25の練習曲 作品100」より
59	第13番「30番練習曲 作品849」より
60	第26番「30番練習曲 作品849」より

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

■ 本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤りなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になる場合は、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していたが、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理サービス窓口」が修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に「修理に関するお問い合わせ窓口」にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただきます」があります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正品と交換させていただきます。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただきます。また、お客様のデータが消える場合がありますので、必要なデータは修理に出す前にお客様にてバックアップをお願いいたします。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理サービス窓口」にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能範囲	1 ~ 16 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 X ***** *****	モード3 X ***** *****	
ノート ナンバー： 音域	0 ~ 127 ***** *****	0 ~ 127 0 ~ 127*1	*1：音色による
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	0 9nH v = 1 ~ 127 X 8nH v = 64	0 9nH v = 1 ~ 127 X 9nH v = 0, 8nH v = **	**は関係なし
アフター タッチ キー別 チャンネル別	X X	X O	
ピッチ・バンド	X	O	
0,32 1 5 6,38 7 10 11 17 18 19 64 65	O X X X O X X X X X X X X X X X X X X X X X X X	O O O O O O O O O O O O O O	バンクセレクト モジュレーション ポルタメントタイム チータエントリ-LSB, MSB *2 ポリューム ハンダフォルツジョン DSPパラメータ0 *2 DSPパラメータ1 *2 DSPパラメータ2 *2 DSPパラメータ3 *2 ダンパー ポルタメントスイッチ
コントロール チェンジ			

CASIO®

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

© MA1501-A Printed in China



PX160-JA-1A

© 2015 CASIO COMPUTER CO., LTD.